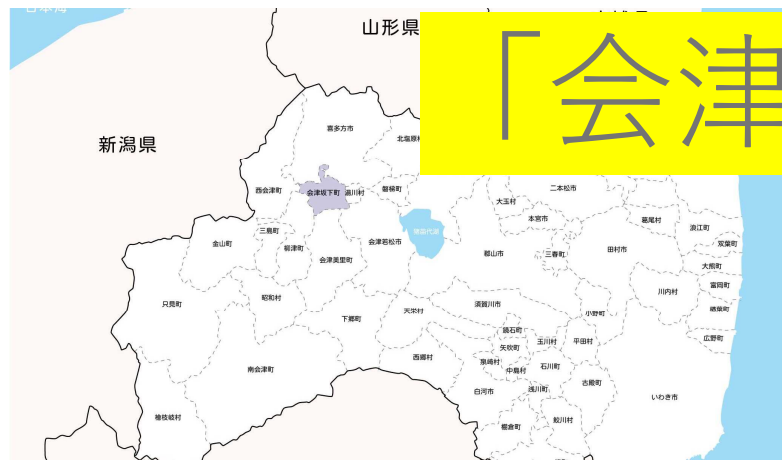


サツマイモ試験栽培に参加して

会津坂下町でのサツマイモ栽培の事例

株式会社アルス古川



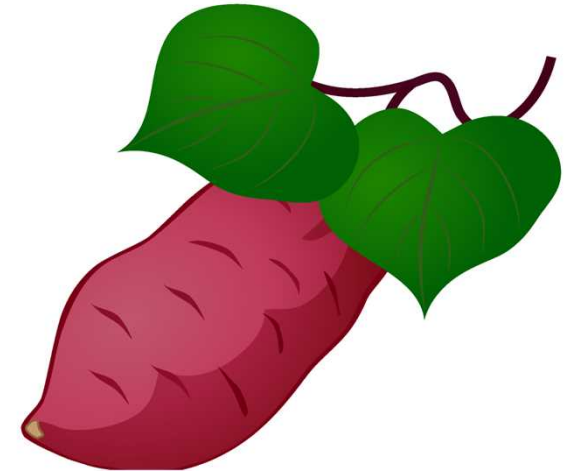
「会津坂下町」とは？



- ・福島県の西側に位置する会津盆地の西部に位置する面積91.59平方キロメートル、人口約15,000人の町。
- ・町の東側から北側にかけて阿賀川が流れているほか、西部には只見川が流れ、盆地が広がり比較的平坦で、水田が多い。
- ・稲作中心の農業が盛んな町であるが、後継者不足。
- ・**「これ」といった特徴のない町…。**

サツマイモ!?

って可能ですか？



- ・ 水稲50％・土地利用型高収益作物20％・飼料作物20％
蕎麦、大豆10％程度の作付けを目標にしたい。
- ・ 土地利用型高収益作物の選定の基準は、ある程度機械化が可能であり、水稲と同程度の収益が見込める作物。
- ・ 水田に向かない黒ボク土の土地でも生産が可能である。
- ・ 「サツマイモ」の反収は2t～3t程度が可能であり、日本の主要産地が基腐病により生産力が低下していて品薄状態が続き、価格も高い状況にある。黒ボク土でも可能。

サツマイモの 栽培に挑戦！！

- ・サツマイモの栽培を開始。

令和4年度から。

作付面積は9ha。

品種は「紅はるか」「シルクスイート」「金時」

無マルチ栽培。

肥料は牛糞堆肥のみ。

排水対策は特になし。



サツマイモ 植えてみます！！



- ・ **土づくり**

令和3年の秋、お米の収穫後に堆肥散布。

- ・ **畝立て**

令和4年の春、トラクター（30馬力）に1連畝立て機使用。

無マルチ。排水対策していない為、畝は高く。

- ・ **植え付け**

田植え後のサツマイモ定植になるため、6月上旬より定植。

定植機は使わず、植え付け棒にて定植。

定植本数は10万本程度。10a当たりの定植本数は1,000本程度。

1日で1人当たり5a～6a定植。

初めての収穫！

- ・ 稲刈り後の収穫になり、10月中旬より収穫開始。
- ・ 掘取機はトラクターにディガー使用。
- ・ 無マルチで栽培した為、雑草の抑制が出来ず、心が折れかけたが収穫は出来、一安心。
- ・ 収量は、1株当たり800g程度の収穫で10a当たり約500kgとなった。
- ・ 日数は1か月程度かかった。



反省…反省… そして反省。

・ 雑草対策

マルチのコストや、作業の手間により栽培当初より無マルチでの栽培を目標にしていますが、それにより雑草対策が課題です。

令和5年度は、定植前に土壌処理系の除草剤を散布したが定植時に土壌表面の処理層を荒らしてしまうので効果がうすかった。中耕培土で雑草の抑制をしようと機械を購入したが、畝間の間隔が合わずに作業できなかった。

令和6年度は、畝立てを早め（定植1か月前）にし、定植前にグリホサート除草剤を散布し、雑草を消してから定植を行い、定植後に土壌処理系の除草剤を散布した。定植時の乾燥と猛暑により、サツマイモの茎葉の繁茂が遅れた為後半に雑草が抑制できなかった。

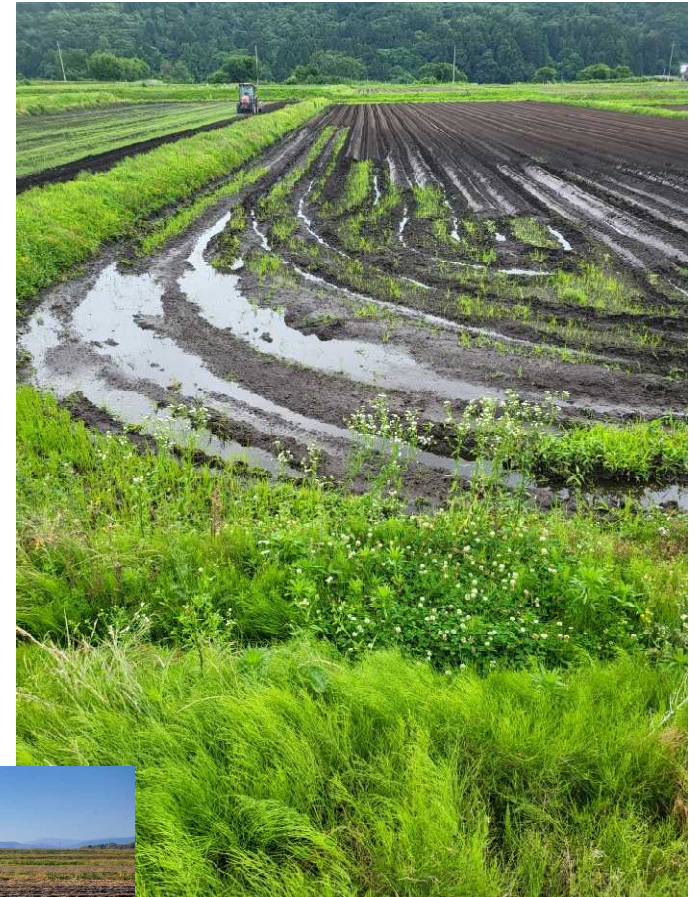


・排水対策

令和4年度は排水対策を行わずに作付けをした。作付けした圃場が周りの圃場より低い為、水が浸透してきた。大雨ごは冠水することもあった。

令和5年度はソイルリフターにより、冠水した圃場の硬盤層を破壊しましたが冠水することがあった。

令和6年度は、カットドレーンにて硬盤層の破壊と排水溝をつくりました。同時に圃場の周りに額縁明渠を掘り、用水路側には圃場を横断する明渠を掘った。これにより、周囲の水田より浸透する水の対策はできた。



・規格外品の用途

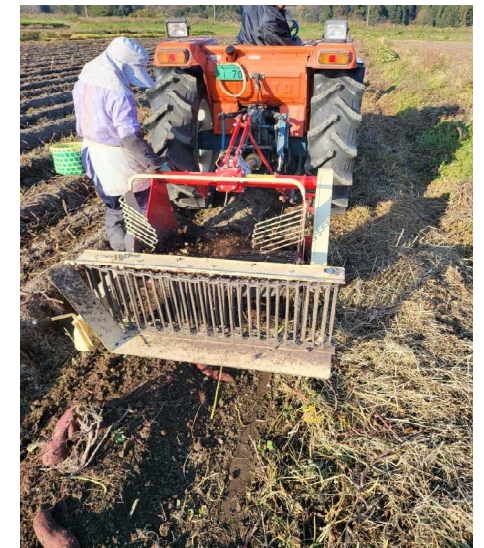
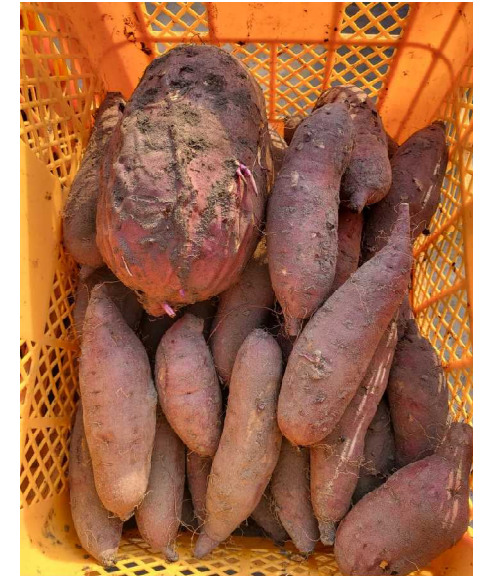
サツマイモの規格外品は全国的には3%～5%程度ですが、弊社では「大きくなりすぎてしまう」「水分過多により割れてしまう」「堀取時に切れてしまう」事による規格外品が20%程度です。そこで県内の畜産農家と協力して規格外品を飼料として活用できないか実験しています。

・作業の効率化と機械化

各作業のなかで最も時間をようするのが収穫作業であると思います。弊社ではディガーを使用して収穫を行っていますが、1日当たり15a程度の作業スピードです。

サツマイモは寒さに弱く、霜が降りると品質が悪くなり廃棄する他ないのですが、秋の収穫時には稲・蕎麦・大豆の収穫もあり、10月中旬からの収穫になってしまいます。

去年は作業が進まず、3ha程収穫を断念しました。



目標は．．． 大きく！！

・収量と売上

収量の目標としては10a当たり2,000本の苗を植え、1株当たり1.5kgの収穫で3トンを目指しています。

生芋の販売、規格外品の飼料としての販売、また焼き芋や干し芋等の6次化にも取り組み、1kg当たり150円の販売単価に設定し10a当たり45万円の売上を目指しています。



目標達成には！

- ・ **雑草対策の確立**

来年度は既存の除草剤での対策に加えて、「もみ殻」でマルチングも実験してみようと思う。

- ・ **機械化体系の確立**

既存の機械を効率良く使用する為に、トラクターや管理機の車輪幅に合わせた畝幅や株間を設定する。

- ・ **保存方法の確立**

全国的に有名な九州や茨城の産地と違い、会津の冬は冷え込みが厳しく保存が困難であるが、キュアリングや保存庫の設置により春までの保存は可能と思う。

